

◆ 新潟医療福祉大学大学院の教員養成理念 ◆

【新潟医療福祉大学大学院の教育理念】

本学大学院は、2005年の開設以来、「より優れた QOL サポーターの育成」を教育理念として掲げてきました。

また、2021年度には、より優れた QOL サポーターを、『仮想空間と現実空間を高度に融合させるとともに、多種多様なスペシャリストが自らの能力を最大限発揮できる環境を構築することで、保健・医療・福祉・スポーツ・教育領域に関わる学術・社会における課題解決と持続的な発展を先導し、誰もが相互に人格と個性を尊重し、支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会を維持・発展させる人材』（以下、Society 5.0 における共生社会を先導する次世代 QOL サポーター）と定義して、教員を含めた人材育成を進めています。

【健康科学学位プログラムの目的】

本学大学院医療福祉学研究科では、健康科学専攻に専修免許取得コースを設置し、教員養成を進めています。

健康科学学位プログラムは、本学大学院の教育理念をもとに、高齢社会の急速な進展および仮想空間と現実空間の融合促進に伴って増大・多様化する健康に関するニーズに対応して、様々な領域の専門家が連携し、対象者支援の質的向上を推進するために、栄養・スポーツの分野を中心とした健康科学等に関する研究と教育を進めるとともに、人と人の連携を促進する人材を育成しています。

【教員養成の理念】

上述の学位プログラムにおける教員養成課程は、学位プログラムにおける人材育成の一環として位置付けています。

従って、本学大学院教員養成課程では、多様な価値観をもった子どもの成長を促す教育現場の抱える問題に対し、関係する人々の連携を促進し、その問題を根本から解決するとともに、学習者本位の教育を実現するために、持続的に成長し、学び続けようとする実践力を有する教員を育成することを目指しています。

以上のことを踏まえて、本学大学院の教員養成教育は、「Society 5.0 における教育を先導する次世代 QOL サポーターとしての教師」すなわち、「より優れた QOL サポーターとしての教師」の育成を理念とし、求められる資質・能力を7項目あげています。

- I. 学習者の人格形成の基礎となる高潔な倫理観
- II. ダイバーシティの思考:学習者・保護者・地域住民および関係者の価値観を尊重できる
- III. 学習者本位の教育を実現するための優れたコミュニケーション能力
- IV. 教育の問題を根本から解決するための豊かな発想力と創造力
- V. データをもとに教育の問題を検証し、新たな教育を探究する能力
- VI. 健康科学に関する高度な知識・技能
- VII. 教育に係る異なる領域の専門家間の連携を促進する能力